

# 遙かなムーンライト

佐竹紫田

夢ならばまだ醒めないで 輪郭は黒でなくミジドナイトブルーで  
真夜中を支配するのは闇でなく僕の最も深い水底の色  
僕だけがあなたに会える場所だからラベンダーのサシェを忍ばせて  
眠りから醒めたくなくて繰り返すアイネ・クライネ・ナハトムジーク  
夜を漂う風からはこれまでの日々を灯したかすかな香り  
吐き出して吐き出してからっぽになれば月の光を肺腑に満たす  
夜に溺れる 想い出と選べない方の未来が満ちてているから  
まだ知らぬ遠くの街の夜景にもあなたはいないことは知っている  
月光環 ひかりが進む道すじはいつもまっすぐとは限らない  
僕のまでも静寂が広がるのだろう決して届かぬ賢者の海は  
月までの片道をゆく快速の切符は今も手に入らない  
もうずっと前の新月に拾つた星の金貨をこの手に握る  
空想を生きてゆくときかたわらに白いペガサスを従えて  
触れたなら僕の身を大理石の像に変えてくれるのだろうか、月は  
辿り着けない場所の方が多いからただじつと待つ深夜快速  
星々を枕木として目に見えぬレールが空に敷かれて きっと  
宇宙に踏み出してみる ペガサスの肩に手を載せ夢の軽やか  
やがて着く死という駅は終着点ではなくそれもまた通過点  
ならばまたどこかであなたに会うでしょう、月の光をこの身に吸けて  
遠くからかすかな汽笛、少しづつすゝづつ近付く走行音